

富山県黒部川水系からのエゾホトケドジョウの記録

著者	稲村 修, 北村 永晴, 荒木 克昌
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	22
ページ	147-148
発行年	1999-03-25
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=723

短 報

富山県黒部川水系からの
エゾホトケドジョウの記録

稲村 修

魚津水族博物館

〒937-0857 富山県魚津市三ヶ1390

北村永晴・荒木克昌

応用地質株式会社

〒330-0034 埼玉県大宮市土呂町2-61-5

The Record of *Lefua nikkonis* at the Kurobe
River in Toyama Prefecture

Osamu INAMURA, Nagaharu KITAMURA and
Yoshimasa ARAKI

エゾホトケドジョウは北海道や青森県に生息するドジョウ科フクドジョウ亜科の純淡水魚である(細谷, 1993)。富山県では、大正から昭和初期の古い記録があるものの(市島, 1926, 1927), その信頼性に疑問が呈されている(山下, 1937)。今回、黒部川河川敷に造成された墓ノ木自然公園内にある細流から、エゾホトケドジョウが捕獲されたので報告する。

京華高等学校の渡辺昌和氏にはエゾホトケドジョウの同定について、黒部川内水面漁業協同組合の中村松浩氏には魚類の放流状況について、富山市科学文化センターの南部久男氏には文献についてご教示いただいた。ここに、厚くお礼申し上げる。

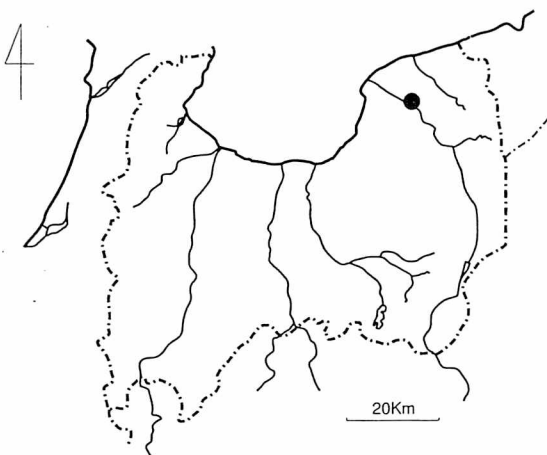


図1. エゾホトケドジョウの採集地点 (●)

コイ目 Cypriniformes

ドジョウ科 Cobitidae

エゾホトケドジョウ

Lefua nikkonis (Jordan et Fowler)

標本: TOYA-Pi-8946 (富山市科学文化センター魚類標本登録番号) 全長42.8mm, 体長34.9mm ♂

TOYA-Pi-8947 全長41.7mm, 体長34.6mm ♀

採集地: 下新川郡入善町墓ノ木黒部川右岸の河川敷にある墓ノ木自然公園内を流れる細流(図1,2)

採集年月日: 1998年11月24日

採集者: 荒木克昌

備考: 最初に採集されたのは、11月11日に行われた建設省の「平成10年度河川水辺の国勢調査一魚介類調査」においてである。この時採集された個体は小さく、ホトケドジョウとの判別が明確でなかった。その後、11月24日に採集された上述の個体には、エゾホトケドジョウの特徴である尾鰭基底部の暗色斑や、雄の体側に1本の黒色縦帯があり(細谷, 1993), エゾホトケドジョウと同定した(図3)。墓ノ木自然公園は、1973年に黒部川の河川敷を利用して造成された公園で、細流は掘り込んで作られたものである。細流には、北陸電力黒部川第3発電所から黒部川本流に排水する水の一部が通水している。この地

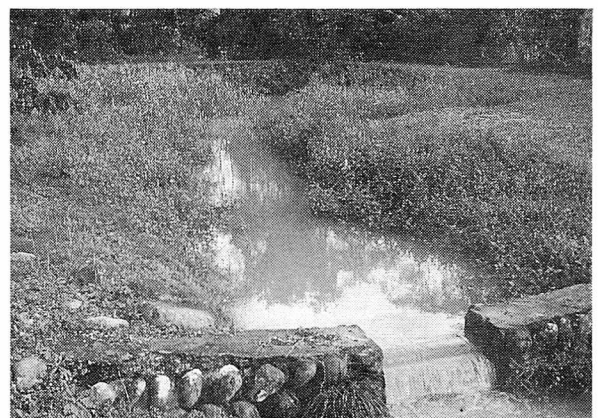


図2. エゾホトケドジョウが確認された墓ノ木自然公園

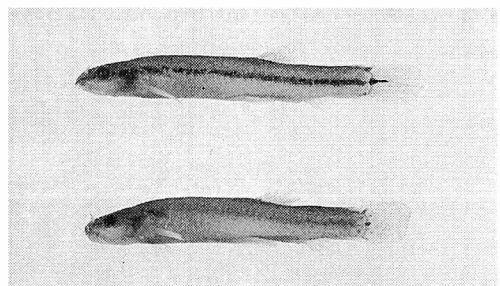


図3. エゾホトケドジョウ<上オス (TOYA-Pi-8946), 下メス (TOYA-Pi-8947)>

点では、エゾホトケドジョウを含んで6科10種の魚類が確認できた（表1）。

表1. 調査地点で捕獲された魚類

アユ科	Plecoglossidae
アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>
サケ科	Salmonidae
ニッコウイワナ	<i>Salvelinus leucomaenis</i>
ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i>
ヤマメ	<i>Oncorhynchus masou masou</i>
コイ科	Cyprinidae
ウグイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>
タカハヤ	<i>Phoxinus oxycephalus jouyi</i>
ドジョウ科	Cobitidae
ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>
エゾホトケドジョウ	<i>Lefua nikkonis</i>
ハゼ科	Gobiidae
オオヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp.LD
カジカ科	Cottidae
カジカ	<i>Cottus pollux</i>

調査日（1998年8月29日，11月11・24日，12月14日）。
ニジマス，ヤマメ，オオヨシノボリは墓ノ木自然公園内の細流につながる用水路で採集。

市島（1926）には，エゾドジョウ *Lefua nikkonis*（学名から現在のエゾホトケドジョウと判断できる）として，立山山脈中の（標高）約1450m地点にある池で採集したことが記されているが，標本は残っておらずエゾホトケドジョウかどうかは確認できない。

採集地点も不明確であるが，立山周辺にある池の中で標高1335mに「泥鰌池」という名の池があり，ドジョウの生息は確認されているが，近年の現地調査ではエゾホトケドジョウは確認されていない（田中・稲村，1994）。

山下（1937）は，「市島（1926，1927）のエゾドジョウの記録には疑いがあり，富山県には立山名物エゾド

ジョウというのがあるが，標準和名のエゾドジョウ（現在のエゾホトケドジョウ）ではない」として，富山県産淡水魚目録から外している。

細谷（1993）によると，エゾホトケドジョウの分布地は北海道と青森県（自然分布か移植かは不明）とされ，富山県は分布地から遠く離れている。

また，黒部川内水面漁業協同組合によると，近年，墓ノ木自然公園付近で放流している魚類は，養殖されたニッコウイワナ（富山県産），ヤマメ（岐阜県産），ニジマス（富山県産），そして琵琶湖産のアユ及び新潟県魚野川産のカジカである（私信）。これらの産地はエゾホトケドジョウの分布域ではなく，放流魚にエゾホトケドジョウが混入してくる可能性は低い。

以上のことから，もともとエゾホトケドジョウは黒部川水系には生息しておらず，放流魚に混入してきたことも考えられないことから，人為的に放流されたと思われる。

また，11月11日と24日に採集し持ち帰ったエゾホトケドジョウは13個体で，全長26mm～43mmの若魚であった。しかし，著者らはその他多数の小型個体を確認しており，墓ノ木自然公園内において繁殖していると思われる。

文 献

細谷和海，1993. エゾホトケドジョウ. 日本産魚類検索，東海大学出版会：372
市島宇八，1926. 富山県水産生物調査第3報. 大正13年度富山県水産講習所事業報告：119-156
市島宇八，1927. 富山県水産生物目録 上巻
（本文献は富山県立図書館に所蔵されており，本文献の冒頭には，富山県博物学会より依頼を受け作成した旨記述されている。）
田中 晋・稲村 修，1994. 淡水魚類. 立山カルデラ自然環境基礎調査報告書，富山県：5-45～53
山下博三，1937. 富山県の淡水魚略記. 富山高校博物同好会会誌，3：42-52